

表紙のデザインについて

三重大学のメインキャンパスは、西側に鈴鹿山脈を望み、東側の端がもう伊勢湾の海であり、海岸には白い砂と松並木があって、まさに「白砂青松」という言葉がぴったりの、すばらしい環境にあります。鈴鹿山脈に沈む太陽の夕焼けも非常にきれいです。当研究科で行われている研究は、空や山の上から陸、さらには海の底まで、実に多彩です。そんな素晴らしい地理的条件にありますので、「空のみどり、松のみどり、海のみどり」から、「三翠学園」という愛称が、大正の初めからあります。そもそも「三翠」という言葉は、三重高等農林学校の初代校長である上原種美先生によって、大正時代に提案されたもののようです。そしてさらに現在では、生物資源学部全体の同窓会の名称を「三翠同窓会」といいますし、大学の講堂は「三翠ホール」という名称が付いています。

以上のようなことから、三翠の「空のみどり、松のみどり、海のみどり」をイメージして、紀要の表紙は、空と松と海の色を表す「青・緑・青」の3色で彩られています。

さらに、掲載原稿に関連する写真の中から、表紙にふさわしいものを選び、中央に掲載しました。

表紙説明：インドネシア共和国ジャワ島のジャングルでの樹木調査風景（2018年8月1日）、本号掲載論文「ジャワ島訪問記：バンドンのジャングル調査とボゴール植物園」参照